

事業所名

Kidsテラス木曽西

公表日

2025 年 3 月 31 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守したスペースを確保しています。	活動内容に応じた環境調整を図り、安全確保に努めます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		法令で定められている職員の配置数を満たしています。	職員の配置数以上に、職員一人ひとりの支援の質の向上に努めます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		安心して過ごしていただけるよう、構造化された環境やパーテーション等を用いて柔軟に環境調整できるよう工夫しています。	バリアフリーが整った環境ではありません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日のクレンリネスを徹底しています。活動に応じた環境調整を図っています。	活動内容によっては、個別対応に適した空間が必要だと感じています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個人面談やクールダウンの空間として、個別の部屋を提供しています。	個別の部屋の数は限られているため、必要とする場面が重なる場合があります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日のミーティング等で情報共有し合う時間を確保しています。	当日出勤ではない職員への情報共有や共通認識を図るアプローチの質の向上が必要です。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に保護者面談を実施し、保護者様のご意向等を把握できるよう努めています。	いただいたご意向等に対し、状況に応じて迅速に関係機関と連携する体制を整えていきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日のコミュニケーションを通してリアルタイムに把握できるよう努めています。	職員の意見等に対し、スピードをもって働きかけ、業務改善につなげていくことです。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	関係機関と連携し、実際に施設の様子を見ていただき、ご意見等を伺う機会を設けています。	SNS等を活用し、積極的な情報発信を通して風通しの良い環境や体制に努めます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的な研修や法人内の研修、外部研修等を取り入れています。	他放デイ・関係機関との交流や勉強会を通して関係を深め、今後のネットワーク構築につながるよう働きかけていくことです。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		利用者様、保護者様の現状や課題に寄り添った支援プログラムとなるよう工夫しています。	関係機関等との関連性を深めていながら、より根拠のある支援プログラム作成に努めます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		定期的にアセスメントを取り、成長や現状の課題を把握しながら作成するよう努めています。	アセスメントシートを通して本質的なニーズを抽出していくスキルを磨き続けます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員一人ひとりの気づきをヒアリングし、共通認識を育むための話し合いを大事にしています。	事業所内だけでなく、他放デイや関係機関等の意見も参考にし、支援の質の向上に努めます。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		当日ミーティングや研修等で事例検討しながら共有しています。	支援計画の解釈に齟齬が生じないよう、共通認識を図ることです。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者様から随時資料等を提供していただき、確認しています。	専門家の見解やアドバイスを受けながら支援に臨める環境を育みたいと考えています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	△		放課後等デイサービスの提供すべき支援を具体的に示すため、「本人支援」「家族支援」「移行支援」の関連性を明確にし、支援内容を設定しています。	「地域支援・地域連携」を組み込んだ支援内容となるよう努めます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		ミーティング等で話し合い、ブラッシュアップしながら組み立てています。	発信・提案が活性化する空気づくりや環境を意識し、積極的に反映できるよう働きかけます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		外部研修やSNS等を参考にし、活動プログラムが固定化しないように意識しています。	一つひとつ意味・意図をもって活動プログラムの作成に臨むことです。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動を組み合わせ、状況に応じて柔軟に対応できるよう支援を行っています。	利用者様によって優先順位が様々であるため、適切な支援を行えるよう環境調整を図ります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		当日の担当や非常災害時の役割、活動の説明、席の位置等を丁寧に確認し、共有しています。	打ち合わせの質を上げ、支援について検討する話し合いがより深まるよう努めます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	△		送迎から戻り、車内清掃・消毒等が終わり次第申し送り時の情報を共有し、閉め作業後に当日の振り返りを行っています。	当日中にできない場合もあるため、翌日までに実施し、職員間で伝達不足がないよう共有を図ることです。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録を通して、小さな変化やサイン等を見落とさないように気をつけています。	記録のとり方の質を上げ、職員のパフォーマンスを引き上げていけるように継続します。

	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、振り返り(評価)をして支援計画を見直しています。	適切な支援を提供できるように、より改善が必要だと感じています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		日替わりの活動プログラムを通して、4つの基本活動を網羅できるように工夫しています。	地域交流の機会を充実していけるように働きかけていくことです。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		定期的に個人面談を実施しています。	一人ひとりに適したアプローチを試みながら、継続して実施します。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的に管理者及び児童発達支援管理責任者が参加しています。	状況に応じて柔軟に対応できるよう、日頃から備えておくことです。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	△		関係機関との情報共有や支援会議等へ積極的に参加しています。	地域の保健、医療と連携した支援体制は整えられていないため、体制の構築を目指します。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		スピードをもって情報収集と連絡調整することを心掛けています。	学校によって情報共有のタイミングが変動することで、送迎編成や人員配置を調整するスピードに影響が生じることがあります。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	関係機関(就学前)と直接やりとりはしていませんが、保護者様から資料等の情報を共有していただいています。	必要に応じて直接やりとりする機会を設け、関係機関との関係を育み、バトンをつないでいけるよう働きかけます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	保護者様に、支援のバトンをつないでいけるように提案しています。	相談支援事業所が入っていないことが多いため、支援のネットワーク構築に努めます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		研修等は積極的に参加し、必要に応じて助言・意見等を求めています。	地域との連携を強化していくためにも、交流機会を増やしていきたいです。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	児童館を利用することはありますが、地域の他のお子様と共に活動する機会はなく、挨拶や物の貸し借りのやりとり等の交流のみです。	今後、機会があれば可能な範囲で実施できるよう検討します。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		開催があれば積極的に参加しています。	活動内容や現状を把握していくために、情報収集を欠かさないことが必要だと感じています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時の報告やSNS等を通して活動プログラムの内容・様子を発信しています。	特に送迎時の報告の質を上げ、利用者様の発達状況や課題に対して適切に対応できるよう連携を図ります。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	関係機関からの情報は随時提供していますが、ご家族が参加できる研修等は行えていません。	家族支援プログラムの充実化を図り、ご家族等が参加できる研修の機会を検討します。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学・契約時にご説明するとともに、事業所内で運営規定等を掲示しています。	一度の説明でご理解いただいたと認識せず、適時丁寧に説明を行い、共通認識を育みます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		利用者様、保護者様のニーズをヒアリングし、反映できるように策定しています。	こどもの最善の利益の優先考慮において、利用者様の想いと保護者様の想いの狭間で慮ることがあります。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		支援計画が利用者様、保護者様のご意向に沿わない場合は修正して策定することをお伝えし、相互理解に努めています。	ご家庭によって連携がスムーズに行えない場合もあるため、柔軟に対応できるよう努めます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的な保護者面談以外でも適時面談を行い、保護者様の同意を得た上で関係機関と連携し、早期解決に向けて支援しています。	継続したアプローチと支援体制の強化を図ることです。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	現在、実施できていません。	保護者様のご意見をヒアリングし、可能な範囲で実施できるよう検討します。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		利用者様、保護者様の想いを真摯に受け止め、迅速に対応するよう努めています。	事業所内に留めず、積極的に関係機関と連携し、適切な対応に向けた体制を整えていくことです。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月Kids通信を発行し、行事予定や活動の様子を把握していただけるように作成しています。	HPやSNS等の活用を幅を広げ、情報発信力を高めていくことです。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は鍵付きキャビネットに保管し、大切に扱っています。	今後も、利用者様、保護者様が安心してご利用いただけるよう継続します。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用者様、保護者様の状況・状態に応じて、視覚的情報等を活用して意思の疎通を図り、適切な情報伝達に努めています。	合理的配慮の推進につながるよう、働きかけていくことです。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	現在、実施できていません。	今後、地域交流を育みながら、地域に開かれた事業運営の土台を築いていきます。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを策定し、いつでも閲覧・研修等ができるように備えています。	マニュアルが形骸化しないよう定期的に見直し、更新していくことです。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画(BCP)を策定し、非常災害の発生に備えた避難訓練を定期的に行っています。	消火器やAED等の使用について、実際に体験して学ぶ機会を定期的に設けていくことです。

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に確認を行い、必要な情報を書面にて提出していただき、全職員で共有しています。	今度も、十分に留意します。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時に確認を行い、必要な情報を書面にて提出していただき、全職員で共有しています。	クッキングやおやつ等を提供する際は、今後も十分に留意します。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、いつでも閲覧・研修等ができるように備えています。	常に改善の余地はないか職員間で話し合いを積み重ね、ブラッシュアップしていくことです。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に説明を行い、Kids通信でも定期的に情報発信しています。	ご家族の視点から考え、安心してご利用いただけるように継続し、連携を図ります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットの有無について毎日振り返りを行い、今後の対策について検討しています。	再発防止に向け、より根拠をもって検討できるように働きかけていくことです。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		東京都が開催してくださる研修に毎回参加し、学んだ知識・技術を全職員に還元できるよう、研修を通して落とし込み、共有しています。	研修時間以上に研修機会を増やしていく必要性を感じています。短時間でも学ぶ習慣が身についていくように働きかけます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時に説明を行い、必要やむを得ず身体拘束を行う可能性がある場合は、保護者様と話し合い、了解を得て支援計画に反映します。	引き続き、必要に応じて話し合い、関係機関の情報も考慮しながら支援計画を策定します。

公表 事業所における自己評価総括表				
○事業所名		Kidsテラス木曽西		
○保護者評価実施期間		2025 年 2 月 10 日	～	2025 年 3 月 20 日
○保護者評価有効回答数		(対象者数) 29	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間		2025 年 2 月 10 日	～	2025 年 3 月 20 日
○従業者評価有効回答数		(対象者数) 4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日		2025 年 3 月 31 日		
○ 分析結果				
	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等		さらに充実を図るための取組等
1	OT、PT、ST、柔道整復師等の専門的意見を取り入れた活動プログラムを作成できる環境にあること。	毎月実施している管理者会議の場を活かして、助言・提案を受けに行くことを意識しています。		現場に入ってもらい、直接指導を受けられる機会を設け、支援の質の向上を図ります。
2	外部の講師による研修等を受けられる環境にあること。	毎月実施している進捗報告等を通して適時相談し、助言・提案を受けに行くことを意識しています。		職員一人ひとりの知識・技術の向上が期待できる仕組みを構築できるように働きかけます。
3	職場体験の機会を提供できること。	職場体験の場を広げていけるように働きかけています。		積極的に見学・体験を申し込み、関係を築いていきます。
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等		改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	直接的に地域と交流する機会が設けられていない。	事業所内の活動プログラムやイベント等に注力している背景が要因にあると考えられます。		まずは、ご近所とのつながりから始め、地域交流の土台を築けるように働きかけます。
2	地域の保健、医療等の関係機関と連携した支援体制が充実していない。	自ら連携を図り、関係を構築する動きが消極的であったことが考えられます。		関係機関が開催しているイベントや研修等へ積極的に参加し、関係構築に努めます。
3	保護者同士やきょうだい同士で交流する機会が設けられていない。	家族の対応力を図る観点から、家族支援プログラムの立案を推進できていないことが要因にあると考えられます。		改めて保護者様等のご意向をヒアリングし、必要に応じて開催できるよう検討します。